



JIS A 6021
認証番号 TC0308269

建築用塗膜防水材料
アクリルゴム系外壁用

JKウォール

組合と
組合員による
共同保証書付
(最長10年)



 日本樹脂施工協同組合

建築用塗膜防水材料 アクリルゴム系外壁用

JKウォール工法

JKウォールは建築用塗膜防水材料の規格である JIS A6021 に合格した高品質の防水形仕上げ材で、優れた防水性能を発揮し建築物を漏水から守ります。また高い伸長性で外壁のひび割れに追従。さらに高耐久性トップコートとの組み合わせで、長期にわたって外壁を美しく維持いたします。

JKウォールは、診断から設計・施工に関して、長年の経験と優れた技術を有する、全国約 150 社の日本樹脂施工協同組合の組合員が、責任施工体制で対応いたします。

JKウォールの特長

1. 防水性に優れています。

柔軟性に富むアクリルゴムの使用で躯体の亀裂に追従することができ、雨水や炭酸ガスの浸入を防ぎます。

2. 耐久性は良好です。

高耐候性トップコートが、長期間、主材を保護します。また、主材は耐久性に優れたアクリルゴムが主成分ですので長期間にわたり安定した性能が保持されます。

3. 改修、改装の仕上材として最適です。

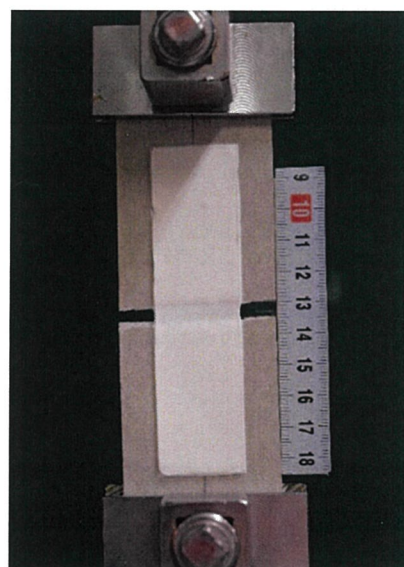
既存の各種仕上材の上に幅広く使用できます。

4. 耐寒、耐熱性に優れています。

きびしい自然条件でも安定した性能を保ち続けます。

5. 環境にやさしい仕上げシステムです。

他社に先駆けて水系システムを完成させました。



◎ひび割れ追従性

JKウォール塗膜は柔軟性に優れており下地にひび割れが発生しても塗膜が破断することなく追従し、雨、海水等の有害物質の躯体への浸入を食い止め、劣化を進行させる外的要因から建物を守ります。

組合と組合員による共同保証付(防水10年)

JKウォールには、日本樹脂施工協同組合と組合員による、最長10年の共同保証(防水保証)が付きます。高い技術を持つ当組合ならではの制度です。責任施工ですので安心してお任せください

JKウォールの用途と適用下地

用途

住宅マンション等の外装
店舗・事務所・工場・倉庫の外装
学校・公共施設の外装

適用下地

コンクリート面、モルタル仕上げ面
ALCパネル面
既存塗膜面

JKウォールの標準塗装仕様

工法	工程	使用材料	希釈(重量%)	塗付け量(kg/m ²)	工程時間(時間)	塗布方法(使用器具)	
0 下地調整 下地調整の項参照							
水系仕様 (標準仕様)	なみがた仕上げ	1 下塗り	水性JKウォールシーラー	清水 0~3	0.15	2~168以内	ローラー塗り 吹付塗り、 刷毛塗り
		2 主材基層塗り	JKウォール 主材	清水 1~3	1.0	5~168以内	多孔質ローラー塗り※
		3 主材模様塗り	JKウォール 主材	清水 1~3	1.0	16~168以内	
		4 上塗り	水性JKウォールトップW-SS	清水 0~20	0.15	2~72以内	ローラー塗り 吹付塗リスプレー、 刷毛塗り
		5 上塗り	水性JKウォールトップW-SS	清水 0~20	0.15	24以上 (最終養生)	ローラー塗り 吹付塗リスプレー、 刷毛塗り
溶剤系仕様	なみがた仕上げ	1 下塗り	JKウォールシーラー#200	無希釈	0.15	2~168以内	ローラー塗り、吹付塗り、刷毛塗り
		2 主材基層塗り	JKウォール 主材	清水 1~3	1.0	5~168以内	多孔質ローラー塗り※
		3 主材模様塗り	JKウォール 主材	清水 1~3	1.0	16~168以内	
		4 上塗り	JKウォールトップMSマイルド	JKウォールトップ MSマイルドシンナー 0~20	0.15	2~72以内	ローラー塗り、吹付塗り、刷毛塗り
		5 上塗り	JKウォールトップMSマイルド		0.15	24以上(最終養生)	ローラー塗り、吹付塗り、刷毛塗り

- ※ 多孔質ローラーは砂骨材ローラー粗目(大塚刷毛製)をご使用ください。目の細かいローラーでは、塗付け量が不足する場合があります。
- ◆ 塗付け量は、標準時の塗付け量です。下地の形状(凹凸)、吸い込み状態によって塗り回数や塗付け量が変わります。ただし、JKウォール主材については下地の形状にかかわらず2kg/m²以上塗り付けてください。
 - ◆ 標準の「なみがた」仕上げのほかに、平吹き仕上げ、玉吹き仕上げ等が可能です。
 - ◆ ALCパネル、GRCパネルや、吸い込みの著しい下地など付いては、事前に組合事務局にご連絡ください。
 - ◆ トップコートの色指定は日本塗料工業会塗料用標準色の番号をご指定ください。(一部の色は出にくいため近似色になる場合があります。)

JKウォールの性能

試験項目		試験結果	規格値	備考
引張性能	引張強さ	試験時温度 23℃	1.9	1.3以上
		試験時温度 -20℃	5.8	1.3以上
		試験時温度 60℃	1.9	0.40以上
	破断時の伸び率 %	試験時温度 23℃	530	300以上
		試験時温度 23℃	290	180以上
		試験時温度 -20℃	100	70以上
破断時のつかみ間の伸び率 %	試験時温度 60℃	270	150以上	
	試験時温度 23℃	290	180以上	
	試験時温度 -20℃	100	70以上	
引裂性能	引裂強さ N/mm	12	6.0以上	
加熱伸縮性能	伸縮率 %	-0.7	-1.0以上、1.0以下	
劣化処理後の引張性能	引張強さ比 %	加熱処理	116	80以上
		促進暴露処理	125	80以上
		アルカリ処理	121	80以上
	破断時の伸び率 %	加熱処理	460	200以上
		促進暴露処理	240	200以上
		アルカリ処理	330	200以上
伸び時の劣化性状	加熱処理	異常なし	いずれの試験片にもひび割れ及び著しい変形があつてはならない	
	促進暴露処理	異常なし		
	オゾン処理	異常なし		
付着性能	付着強さ N/mm ²	無処理	1.1	0.70以上
		温冷繰返し処理後	0.84	0.50以上
耐疲労性能		異常なし		いずれの試験体にも塗膜の穴あき・裂け・破断があつてはならない
たれ抵抗性能	たれ長さ mm	たれなし		いずれの試験体も3.0以下
	しわの発生	異常なし		いずれの試験体にもあつてはならない
固形分		71.5±1.5		表示値±3.0

施工上の注意

1. 事前調査すること

◎既存塗膜がある場合、

- 既存塗膜の状態をあらかじめ確認すること。既存塗膜が脆弱な場合、JKウォール施工後に既存塗膜が剥離を生じ、膨れを発生させる懸念があります。脆弱な既存塗膜は必ず除去してください。
- 既存塗膜の履歴がわからない場合、標準仕様では、十分な付着力が得られない可能性がある場合は、あらかじめ試験塗りをを行い、付着力を確認してから施工して下さい。

◎新設下地の場合、

- コンクリート下地の乾燥期間は4週間以上とし、表面を十分乾燥させると共にアルカリ度PH10以下になってから施工して下さい。

2. 施工条件

- 気温5℃以下、湿度 80%以上の施工は、造膜性に支障をきたすおそれがありますので避けて下さい。
- 降雨、降雪、結露のおそれのある時は、施工を避けて下さい。
- 降雨や結露後に施工する場合、下地を十分乾燥させてから、施工して下さい。下地に水分を多く含んでいる場合、施工後にJKウォール塗膜に膨れを発生させる場合が考えられます。
- 強風の場合、原則的に施工を避けてください。

3. 下地調整

◎既存塗膜のある場合、

- 既存下地の老朽化した部分は除去し、凹部、ひび割れ等を補修し、施工して下さい。

◎新設下地の場合

- 下地は十分に乾燥させ、下地表面に付着している塵埃、セメントノロ、エロ粉、型枠離型剤等は除去してください。
- 下地の不陸、豆板等の段差やピンホールは、サンダー掛け、段差修正等を行って下地を平滑にしてください。

4. 養生

- 養生は十分行って下さい。

5. 施工前の注意

- 施工に入る前に試験塗りをいいパターン、色を十分に確認して下さい。
- 溶剤系仕様では、下塗材、上塗材に溶剤系材料を用います。施工時は保護具等を着用し、安全には注意してください。
- 製品を取り扱う前に、必ず安全データシートをお読みください。
- タイル等、特殊な下地については、事前にご相談ください。

6. 下塗り

- 下地の吸込みムラを防止し、下地と主材との接着をより強固にするために水性JKウォールシーラーを下地面に均一に、十分塗付けて下さい。
- 塗付け量は、下地の吸込み状態により変動いたしますが、吸込みが大きいときは下塗りを再塗装し、接着不良・パターンムラなどを防止して下さい。
- 吸い込みの著しい下地や、GRC パネル、ALC パネル等に対しては、事前に組合事務局にご連絡ください。

7. 主材塗り

- JKウォール主材を2回塗りで2.0kg/m²均一にムラなく塗付けします。主材塗りの塗膜は防水層としての機能を果たせるもので、十分塗付け量に注意して均一に仕上げして下さい。
- 建物のコーナー部分等の均一塗装が難しい部分はあらかじめ、はけ塗り等をおこない、十分な塗膜厚を確保してください。
- 開缶後上下層を攪拌機で気泡の入らないよう均一に混合して御使用下さい。

8. 上塗り

- 水性JKウォールトップW-SSは主材層の汚れを防ぎ、美観を保持するため使用します。水性JKウォールトップW-SSは、ダレ・ムラなどに注意して、ローラー・刷毛等で均一に規定量を2回塗りに仕上げして下さい。
- 水性JKウォールトップW-SSは開缶後清水で0～20%(重量比)を加えて均一に攪拌した後、塗付け量0.30kg/m²を使用して2回塗りに仕上げます。

その他の注意

保管上の注意

- JKウォールシーラー#200、JKウォールトップMSマイルド等は溶剤系のため火気に十分注意し、室内に保管してください。
- 水性JKウォールシーラー、JKウォール、水性JKウォールトップW-SSは凍結に注意し、室内に保管してください。

廃棄方法

- 法規に従って、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する。

JKウォールの荷姿

製品名	容量	備考
JKウォールシーラー#200	16kg(石油缶)	
水性JKウォールシーラー	15kg(石油缶)	
JKウォール主材	18kg(石油缶)	
JKウォールトップMSマイルド	基剤12kg(石油缶)／硬化剤2kg(2ℓ角缶)	14kgセット
JKウォールトップMSマイルドシンナー	16ℓ(石油缶)	
水性JKウォールトップW-SS	15kg(石油缶)	

販売元



日本樹脂施工協同組合

〒110-0016 東京都台東区台東1-12-11 秋葉原KMDビル
TEL 03-3831-6185 FAX 03-3831-3926
http://www.jkk.or.jp

製造所



株式会社 セブンケミカル

埼玉事業所 〒355-0812 埼玉県比企郡滑川町都25-43(東松山工業団地)
TEL.0493-56-3195(代) FAX.0493-56-4238

◀ 組合員 ▶

